

演題番号：6

演題名：豚全部廃棄データを活用した生産者へのフィードバックの試み

発表者名：○宮良当一郎 三輪英一 安里優子 田端亜樹

発表者所属：中央食肉衛生検査所

1. はじめに

これまで当所では、豚のと畜検査結果について生産者へフィードバックし衛生管理の改善を促してきた。そこで今回は、生産者の管理強化意識を更に高めるため検査結果だけではなく、全部廃棄による経済的損失についての視点も加えたフィードバックを試みたのでその概要を報告する。

2. 材料および方法

平成13年4月から平成24年3月までのと畜検査データベースから、全部廃棄頭数、疾病の内容を集計・検証した。また、近年増加傾向にあるサルモネラ症については地域別の発生動向を調べた。更に平成20～23年度の4年間で毎年10頭以上全部廃棄がみられることを条件に生産者を抽出した。そのうち多くの預託農家を抱えている2業者各2戸計4戸を選別し、全部廃棄率を全国と比較するとともに、年間損失額等を独自に算出して生産者にフィードバックした。

3. 結果

全部廃棄頭数は年間平均255頭であった。全部廃棄の主な理由となった疾病は、豚丹毒、敗血症、サルモネラ症、膿毒症、住肉孢子虫症および豚赤痢であり、全体の80～90%を占めていた。平成15～17年度にかけては敗血症、平成21年度には豚丹毒、また平成20～23年度にかけてはサルモネラ症がそれぞれ全体の約半数を占めていた。サルモネラ症の発生動向については約90%以上が北部地域でみられた。設定した条件により抽出した12戸の生産者は比較的大規模で、そのうち選別した4戸の全部廃棄率は全国に比べて多いところで約2.4倍、年間損失額は約150万円、出荷経費が約103万円であった。これらの現状に対して聞き取りを行った生産者は、ワクチンの変更、飼料添加薬剤の検討等疾病対策に関心が高かった。

4. 考察およびまとめ

全部廃棄疾病のうち大半を占めるものは年度によって違いがみられたが、その大部分が感染症によるものであった。サルモネラ症が北部地域に多くみられる原因は、サルモネラ症感染豚が慢性的に多く常在している肥育農場が、北部地域に集中しているのではないかと考えられる。聞き取りを行った生産者は損失額等について認識はしており、様々な疾病対策を検討する等衛生管理を強化する意欲はみられたが、現場管理従業員の管理強化に対する意識の差や大規模であるがゆえの管理や疾病防除の困難さなど、様々な問題があることがわかった。これらを踏まえ、今後はと畜検査データを疾病排除の観点だけでなく経営等の様々な面から分析・活用しながら家畜保健衛生所と共有連携し生産者に還元していくなど、全部廃棄疾病の減少に努めていきたい。